

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 授業目標の明確化と問題解決過程の重視
- GIGA スクール構想の積極的活用による、ICT を利用した授業展開
- 「家庭学習の手引き」・「自主学習ノート」・「タブレットドリル」を活用した、家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 本田 隆史	委員	校長	小林 積	教頭	石丸千代
	教諭・教務主任	後藤真治			
	教諭・第1学年主任	本田隆史			
	教諭・第2学年主任	武知直子			
	教諭・第3学年主任	平田明美			

校長

小林 積

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

授業公開や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な内容が定着している生徒が多い。落ち着いて授業に臨み、与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができる。 ●定着が十分でない生徒に対して、反復学習を行うなど、個別指導の充実が必要である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・習得した知識を、既習の知識と関連づけ、他の学習の場面で活用することができる。	・T.T.指導を展開し、定着が不十分な生徒の個別指導を充実させる。 ・基本的な内容が復習できるプリント・ワーク等を課題とし、小テストを随時行う。 ・活動ごとや単元ごとに、ノート等の内容を確認する。 ・“ MetaMoji ”でプリントを配布したりタブレットドリルを活用したりして、反復学習を行う。	基礎的・基本的な知識・技能の習得は図られている。今後も、学習内容が復習できる課題や小テストを継続して行っていく。また、個々の状況に合わせ、個別指導も充実させる。さらに、獲得した知識を他の学習や生活の場面でも活用できるよう、助言を行う。	・T.T.指導において、学習内容の理解が不十分な生徒に対して個別指導を行い、基礎の定着を図った。 ・教科において、基本的な内容を復習できるワーク等を課題とし、確認の小テストを実施した。また、タブレット ドリルを活用して、反復学習を行った。	・教科によっては生徒間の学力差が大きい。引き続き苦手意識のある生徒に対して個別指導を充実させる。 ・タブレットドリルやデジタル教科書のさらなる効果的な活用方法を模索するなど、各教科で工夫改善を続けていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ワークシートを工夫したり、ペア学習・班活動を取り入れた授業を展開したりした結果、表現活動を楽しみ、自分なりに工夫する姿が見られる。 ●単純な問いに対しては積極的に発言できるが、根拠を明らかにして筋道立てて説明することが苦手である。	・課題解決に至る過程を表現することができる。 ・さまざまな事象を関連づけたり、学習した内容を組み合わせることで考えを深めたりすることができる。	・授業の目標を明確にするとともに、授業の流れが分かる板書・ワークシートを工夫する。 ・アウトプットの場を多く設定するとともに、タブレットを効果的に活用し、一人一人が意見や考えを表現する機会を作る。 ・様々な体験活動を通して表現力を高める。	根拠となることがらを的確に記述したり、討論することに苦手意識をもつ生徒が多い。今後も引き続き、グループやペアでの活動を積極的に取り入れ、自分の意見を発表しやすい雰囲気づくりをめざす。そのときにタブレットを使用した活動も取り入れる。	・ほとんどの教科において、ペア学習や班活動を積極的に取り入れ、アウトプットの場を多く設定することができた。 ・授業の最初に、本時の目標や流れを明示することで、生徒に見通しを持たせることができた。	・各教科において、生徒が表現する機会をさらに増やし、自分の意見を整理し分かりやすく伝える練習をさせる。 ・各教科において、ステップアップテストや学力学習状況調査から課題を分析し、その改善に向けての取り組みを続けていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題等の提出率は高い。また、定期テスト前の学習にも、多くの生徒が目標を掲げ、意欲的に取り組んでいる。 ●自ら課題を見つけて学習に取り組むことが苦手な生徒がいる。	・「家庭学習の手引き」を活用し、授業で学んだことを自分のものとするために必要な家庭学習ができる。 ・ある事象に対して疑問を抱き、その疑問に対して、自ら調べることができる。	・学期ごとに家庭学習充実月間を設け、「自主学習コンテスト」を行い、家庭学習の質の充実を図る。 ・休日にタブレットを持ち帰り、“タブレットドリル”を用いて自らの理解度に応じた問題を選択して取り組ませる。	・自主学習コンテストの中から、優秀な作品を掲示することで、自分の学習を振り返らせ、主体的に課題を追求しようとする態度につなげる。 ・休日だけでなく、テスト前にセミナーの時間や教科でテストへ向けて“タブレットドリル”に取り組ませる。	・各教科の課題や自主学習ノートを、ほとんどの生徒が提出できた。 ・テスト前の朝学習の時間に“タブレットドリル”を活用し、生徒自身が解く問題を選択して取り組んだ。 ・長期休業中にタブレットを持ち帰り、各教科の課題の提出に利用した。	・家庭学習をさらに充実させるため、各教科や学級で課題の出し方を工夫する。 ・タブレットドリルを含めて、自分の理解度や弱点に応じて学習内容を選択して取り組める機会を増やす。

令和6年度 学力向上ロードマップ



